ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

教員氏名	小森谷　巧

主な担当科目	実技個人レッスン[器楽Ⅰ①,器楽Ⅰ②,器楽Ⅰ④,器楽実技Ⅰ③]
シラバス	次ページをご参照ください

2022年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	引き続き、事務局員、担当教員らと常に連絡をとり、学校、学生のために尽力する。
2022年の教育に関する自己評価	非常に多角的な対応が早急に求められるなか、実技レッスン、ジーリオオーケストラ、合奏授業、演奏実習など、自分なりに対応出来た。

2022年のFD活動に関する自己評価	オンデマンドを含め参加できた。
授業改善のために 取り入れた研修内容	例年通り弦楽器唯一の専任として、非常勤の先生方とも連絡をとり、改善につとめた。

科目名－クラス名

器楽Ⅰ①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

基礎的なテクニックや、音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本を身につける事ができる。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）

第2回　基礎的な練習の必要性ならびに練習の進め方についての演習

第3回　音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習１（基礎を中心に）

第4回　音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習２（上記の応用）

第5回　各自のレベルに合わせた教則本を取り上げ、その教則本が意図している目標を理解する

第6回　教則本の目標に沿って的確に演奏できているか、さらに強化するべきことは何かを学ぶ

第7回　個々の長所短所を理解し、訓練によって苦手を克服する

第8回　音階、教則本に加え、段階に応じて専攻楽器のための作品について取り上げる

第9回　音楽作品を演奏する際に大切な、取り組みの姿勢について学ぶ

第10回　楽器の音色、音質にこだわって演奏できているかを確認する

第11回　演奏を客観的に捉え、いい音程で演奏できているかを確認する

第12回　音楽作品を楽譜に忠実に演奏できているかを確認する

第13回　前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲の楽曲分析）

第14回　前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）

第15回　前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について

第16回　夏休み課題の成果確認と後期の目標設定

第17回　作品Ａの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第18回　作品Ａの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第19回　作品Ａの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第20回　作品Ａの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第21回　作品Ａの表現についての演習1（アイデアを音にする）

第22回　作品Ａの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第23回　作品Ｂの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第24回　作品Ｂの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第25回　作品Ｂの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第26回　作品Ｂの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第27回　作品Ｂの表現についての演習1（アイデアを音にする）

第28回　作品Ｂの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第29回　後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）

第30回　後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽Ⅰ①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

基礎的なテクニックや、音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本を身につける事ができる。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）

第2回　基礎的な練習の必要性ならびに練習の進め方についての演習

第3回　音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習１（基礎を中心に）

第4回　音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習２（上記の応用）

第5回　各自のレベルに合わせた教則本を取り上げ、その教則本が意図している目標を理解する

第6回　教則本の目標に沿って的確に演奏できているか、さらに強化するべきことは何かを学ぶ

第7回　個々の長所短所を理解し、訓練によって苦手を克服する

第8回　音階、教則本に加え、段階に応じて専攻楽器のための作品について取り上げる

第9回　音楽作品を演奏する際に大切な、取り組みの姿勢について学ぶ

第10回　楽器の音色、音質にこだわって演奏できているかを確認する

第11回　演奏を客観的に捉え、いい音程で演奏できているかを確認する

第12回　音楽作品を楽譜に忠実に演奏できているかを確認する

第13回　前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲の楽曲分析）

第14回　前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）

第15回　前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について

第16回　夏休み課題の成果確認と後期の目標設定

第17回　作品Ａの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第18回　作品Ａの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第19回　作品Ａの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第20回　作品Ａの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第21回　作品Ａの表現についての演習1（アイデアを音にする）

第22回　作品Ａの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第23回　作品Ｂの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第24回　作品Ｂの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第25回　作品Ｂの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第26回　作品Ｂの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第27回　作品Ｂの表現についての演習1（アイデアを音にする）

第28回　作品Ｂの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第29回　後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）

第30回　後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽Ⅰ①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

基礎的なテクニックや、音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本を身につける事ができる。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）

第2回　基礎的な練習の必要性ならびに練習の進め方についての演習

第3回　音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習１（基礎を中心に）

第4回　音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習２（上記の応用）

第5回　各自のレベルに合わせた教則本を取り上げ、その教則本が意図している目標を理解する

第6回　教則本の目標に沿って的確に演奏できているか、さらに強化するべきことは何かを学ぶ

第7回　個々の長所短所を理解し、訓練によって苦手を克服する

第8回　音階、教則本に加え、段階に応じて専攻楽器のための作品について取り上げる

第9回　音楽作品を演奏する際に大切な、取り組みの姿勢について学ぶ

第10回　楽器の音色、音質にこだわって演奏できているかを確認する

第11回　演奏を客観的に捉え、いい音程で演奏できているかを確認する

第12回　音楽作品を楽譜に忠実に演奏できているかを確認する

第13回　前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲の楽曲分析）

第14回　前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）

第15回　前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について

第16回　夏休み課題の成果確認と後期の目標設定

第17回　作品Ａの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第18回　作品Ａの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第19回　作品Ａの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第20回　作品Ａの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第21回　作品Ａの表現についての演習1（アイデアを音にする）

第22回　作品Ａの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第23回　作品Ｂの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第24回　作品Ｂの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第25回　作品Ｂの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第26回　作品Ｂの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第27回　作品Ｂの表現についての演習1（アイデアを音にする）

第28回　作品Ｂの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第29回　後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）

第30回　後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽Ⅰ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）

第2回　テクニックを要する練習曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第3回　テクニックを要する練習曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第4回　テクニックを要する練習曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第5回　テクニックを要する練習曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第6回　テクニックを要する練習曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）

第7回　テクニックを要する練習曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第8回　オーソドックスな作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第9回　オーソドックスな作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第10回　オーソドックスな作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第11回　オーソドックスな作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第12回　オーソドックスな作品の表現についての演習（アイデアを音にする）

第13回　前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）

第14回　前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）

第15回　前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について

第16回　夏休み課題の成果確認と後期の目標設定

第17回　テクニックを要する作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第18回　テクニックを要する作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第19回　テクニックを要する作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第20回　テクニックを要する作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第21回　テクニックを要する作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）

第22回　テクニックを要する作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第23回　後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第24回　後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第25回　後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第26回　後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第27回　後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）

第28回　後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第29回　後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）

第30回　後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽Ⅰ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）

第2回　テクニックを要する練習曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第3回　テクニックを要する練習曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第4回　テクニックを要する練習曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第5回　テクニックを要する練習曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第6回　テクニックを要する練習曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）

第7回　テクニックを要する練習曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第8回　オーソドックスな作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第9回　オーソドックスな作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第10回　オーソドックスな作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第11回　オーソドックスな作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第12回　オーソドックスな作品の表現についての演習（アイデアを音にする）

第13回　前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）

第14回　前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）

第15回　前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について

第16回　夏休み課題の成果確認と後期の目標設定

第17回　テクニックを要する作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第18回　テクニックを要する作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第19回　テクニックを要する作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第20回　テクニックを要する作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第21回　テクニックを要する作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）

第22回　テクニックを要する作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第23回　卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第24回　卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第25回　卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第26回　卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第27回　卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）

第28回　卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第29回　卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）

第30回　卒業試験課題曲の最終仕上げ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽Ⅰ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）

第2回　テクニックを要する練習曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第3回　テクニックを要する練習曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第4回　テクニックを要する練習曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第5回　テクニックを要する練習曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第6回　テクニックを要する練習曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）

第7回　テクニックを要する練習曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第8回　オーソドックスな作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第9回　オーソドックスな作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第10回　オーソドックスな作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第11回　オーソドックスな作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第12回　オーソドックスな作品の表現についての演習（アイデアを音にする）

第13回　前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）

第14回　前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）

第15回　前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について

第16回　夏休み課題の成果確認と後期の目標設定

第17回　テクニックを要する作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第18回　テクニックを要する作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第19回　テクニックを要する作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第20回　テクニックを要する作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第21回　テクニックを要する作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）

第22回　テクニックを要する作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第23回　後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第24回　後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第25回　後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第26回　後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第27回　後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）

第28回　後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第29回　後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）

第30回　後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽Ⅰ④

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	4～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。①～③で学修した内容をさらに発展させ、より高度で専門性を持った音楽人として成長ができる。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）

第2回　協奏曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第3回　協奏曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第4回　協奏曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第5回　協奏曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第6回　協奏曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）

第7回　協奏曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第8回　前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第9回　前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第10回　前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第11回　前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第12回　前期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）

第13回　前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）

第14回　前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）

第15回　前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について

第16回　夏休み課題の成果確認と後期の目標設定

第17回　独奏曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第18回　独奏曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第19回　独奏曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第20回　独奏曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第21回　独奏曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）

第22回　独奏曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第23回　卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第24回　卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第25回　卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第26回　卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第27回　卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）

第28回　卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第29回　卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）

第30回　卒業試験課題曲の最終仕上げと４年間のまとめ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽Ⅰ④

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	4～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。①～③で学修した内容をさらに発展させ、より高度で専門性を持った音楽人として成長ができる。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）

第2回　協奏曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第3回　協奏曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第4回　協奏曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第5回　協奏曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第6回　協奏曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）

第7回　協奏曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第8回　前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第9回　前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第10回　前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第11回　前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第12回　前期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）

第13回　前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）

第14回　前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）

第15回　前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について

第16回　夏休み課題の成果確認と後期の目標設定

第17回　独奏曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第18回　独奏曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第19回　独奏曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第20回　独奏曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第21回　独奏曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）

第22回　独奏曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第23回　卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第24回　卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第25回　卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第26回　卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第27回　卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）

第28回　卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第29回　卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）

第30回　卒業試験課題曲の最終仕上げと４年間のまとめ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽実技Ⅰ③

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	3～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースの実技レッスンである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。①・②で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Ａの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Ａの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Ａの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Ａの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Ａの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Ａの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Ｂの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Ｂの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Ｂの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Ｂの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Ｂの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽実技Ⅰ③

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	3～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースの実技レッスンである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。①・②で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Ａの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Ａの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Ａの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Ａの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Ａの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Ａの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Ｂの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Ｂの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Ｂの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Ｂの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Ｂの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

「芸特応用研究Ⅰ」担当教員

１）評価結果に対する所見

「芸特応用研究Ⅰ」は、「芸特応用研究Ⅱ」とともに短大の音楽と社会コースの必修科目で、教養科目として位置付けられている。長期履修学生もいるため、履修者数は年度によってさまざまであり、2022年度は6名であった。

Q10総合満足度3.60(80%) をはじめ、各設問項目で、1名だけがマイナス評価をつけていたことがわかる。ただ、自由記述にはプラスのコメントのみが書かれた。レポート提出のみでなく、前期・後期には成果発表会としてプレゼンテーションを実施しており、それについてはおおむね好評と思われる。コロナは収束しつつあったが、演奏会や各種の展覧会に以前のように足を運ぶには、シニアの学生にはまだ不安が残っていたかもしれない。成果発表会でそれぞれの取り組みを共有できたことについて、「楽しかった」という表現が肯定的な評価を示していると思いたい。また、自主的な鑑賞のみでなく担当教員の講座を取り入れたことに対しては「先生方をお呼びしてお話を伺ったり、演奏を聴かせていただいたりするのは有意義だった」ととらえられている。

２）要望への対応・改善方策

2022年度中に「芸術特別研究Ⅰ・Ⅱ」が大幅な見直しを図ったことから、音楽と社会コース独自の科目「芸特応用研究Ⅰ・Ⅱ」についても分科会でそのあり方を検討した。2023年度には、科目名は現状維持としながら内容の一部を見直し、これまで分科会に寄せられていた学生の要望に応じて柔軟に変更している。自主的なアンサンブルの機会を提供し、成果発表として、これまでの各種芸術鑑賞の口頭発表に加えて、アンサンブルによる演奏も成果発表として認めることにしたのである。

３）今後の課題

一部の学生に高い要望のあったアンサンブルについて、今後、この科目で継続できるかどうか、さまざまな課題は残っている。分科会で検討を継続する予定である。

以　上